

## 【第8問】

動画コンテンツをアップロードしてビジネスを実践するクリエイター、通称ユーチューバーである大学生の甲・乙・丙の3人組は、新しい動画を発信する計画を立てた。その内容は、甲・乙が薬物と見せかけた粉末を警察官の前で落として、それが薬物ではないかと警察官に嫌疑を抱かせたところで瞬時に逃走することで、警察官を必死で追跡させて冷やかし、その一部始終を丙が撮影するという、いわゆるドッキリ動画を撮影しようというものだった。

翌日、甲・乙は、2人で交番前へ向かい、丙は撮影場所の配置について。甲は、交番の外にいた警察官Aの目の前で、小さな袋に小分けしてある、薬物と見せかけた粉末入りの袋を、うっかりポケットから落としたように見せかけてわざと地面に落とした。それに気がついたAは、袋を拾ったところ、中身が薬物ではないかと疑いながらも、それを甲に渡したが、その瞬間、甲と乙は、一目散に逃走したため、Aは、甲が落としたものは覚せい剤で間違いないとの嫌疑を抱き、甲と乙を全力疾走で追跡した。最終的に、Aによって、足の遅かった甲が先に身柄を拘束された。甲が身柄を拘束されている状況を、乙は10m離れたところから笑いながら見ていたところ、Aが乙の元に駆け寄ってきた。Aによって、乙のポケットにも粉末入りの袋があったことが確認された後、乙はAによって身柄を拘束されそうになった。しかし、乙は、「自分はただ一緒に走っていただけで、身柄拘束される理由はないから違法な身柄拘束である」と勝手に思いこみ、Aに抵抗するかたちで暴行を加えた。

甲・乙の罪責を論ぜよ。